

弱者のために行動を

第2回沖繩平和賞受賞 菅波茂アムダ代表

第二回沖繩平和賞に輝いたアムダの菅波茂代表は二十二日の授賞式終了後の会見で、「（沖繩戦などの歴史で）不条理という言葉が当てはまる沖繩から平和を求める賞をいただいたことを重く受け止める」と述べた。県民が自らの意思で選択できなかった米軍基地の存在など沖繩の現状に触れ「人間の尊厳は選択肢があることだが、選択肢が持てない弱者の強みは（他の）弱者の痛みが分かることだ。世界の弱者や平和のために積極的に行動を起こせば、世界の理解が得られる」と訴え、沖繩発の国際協力に期待した。

「知事外交」も提言

授賞式で提案した「沖繩—ニシアチブ世界平和三位一体構想」については、支援を必要としていた世界の国々の多くが血縁共同体社会であることと一揃にやっていきたを説明し、「沖繩は日本で唯一の血縁共同体社会だ」と指摘。世界の県系を懸念し、青少年に紛争や災害現場を身近に体験させるための奨学金創設を提案。知事外交のサミット開催も提言し、被災体験を持つ広島、震災を体験した兵庫、国際貢献を推進している岡山の各県と沖繩が連携し、平和を

菅波茂代表は国連外交に期待。沖繩の相互扶助をしたいたの考えも示した。

アムダ活動概要

アムダ（AMDA）は一九八四年に菅波茂代表を中心に岡山県に設立。アジアやアフリカ、中南米で戦争や自然災害により困窮する人々への医療支援と生活改善を支援する。九八年に中米ニカラグア

のハリケーン被災地、二〇〇一年はエルサルバドル大地震被災地に医師や看護師を派遣するなど活動を続けている。

沖繩支部（支部長・大仲良一沖繩セントラル病院院長）は九五年に設立。九八年に中米ニカラグアのハリケーン被災地、二〇〇一年はエルサルバドル大地震被災地に医師や看護師を派遣するなど活動を続けている。



沖繩平和賞を受賞し、記念講演するAMDAの菅波茂代表—22日午後、名護市

さらに戦争体験の風化を懸念し、青少年に紛争

や災害現場を身近に体験させるための奨学金創設を提案。知事外交のサミット開催も提言し、被災体験を持つ広島、震災を体験した兵庫、国際貢献を推進している岡山の各県と沖繩が連携し、平和を

期待。沖繩の相互扶助をしたいたの考えも示した。